



やられたな

何もこんな
いきなり
降るこた
ねえだろ



そうだね

頭から
水をかぶった
というか

うん…
溺れた
みたいだ

ククク
違いねえわ

君と一緒に
落ちた

あの時のこと



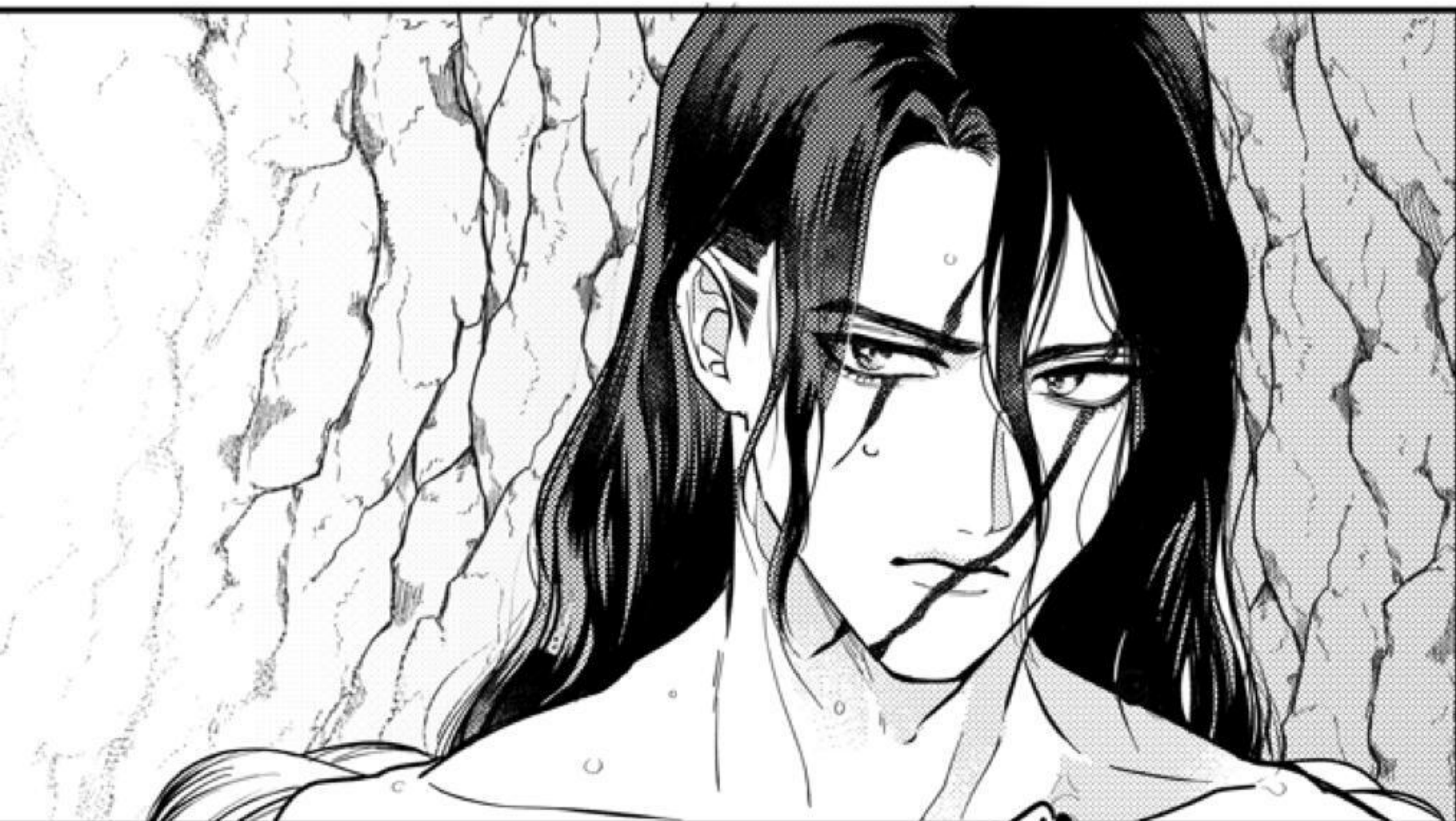
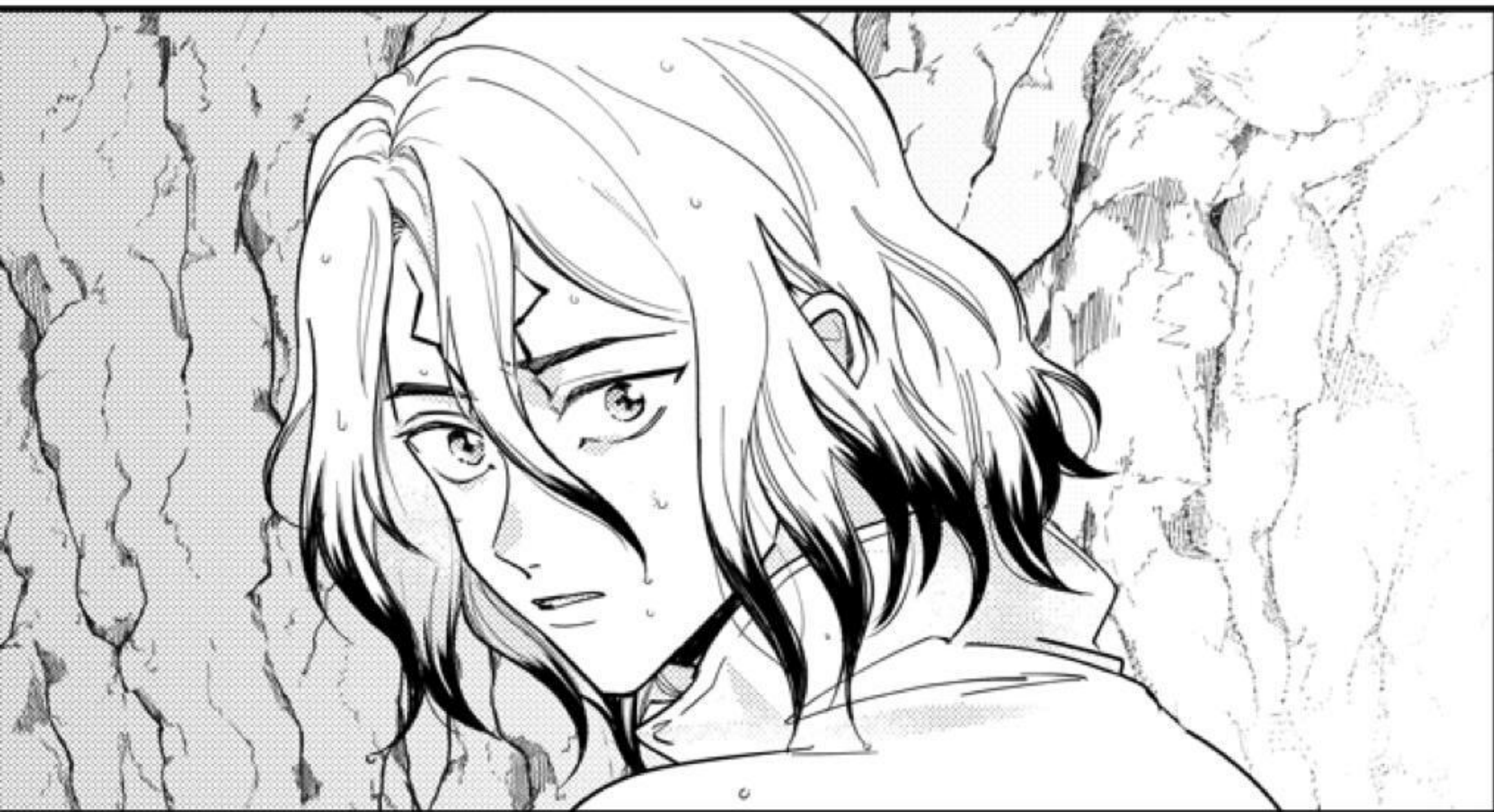
絞っても絞っても
水が出てきやがる

…千空

つたく

思い出さ
ないかい？

まっ？





そのおと
すけは
なつかし
い

七
の
世
界
の
下
七
女
子

言葉は
いらなかった



言葉は
いらなかった



その時
心は
静かだった



土砂降りの日に
たがが外れた
俺たちは

足りないものを
補い合うかの様に
求めあった



それでも



定期的に
体を重ねる
以外に



何が変わる
でもなく

それなら、この関係は

あっ







千空

最初に比べて
感度良く
なってきたね

自分でも
分かるかい？

るせ...



...司



テメーこそ
随分良さそう
じゃねえかよ






千空

俺はね

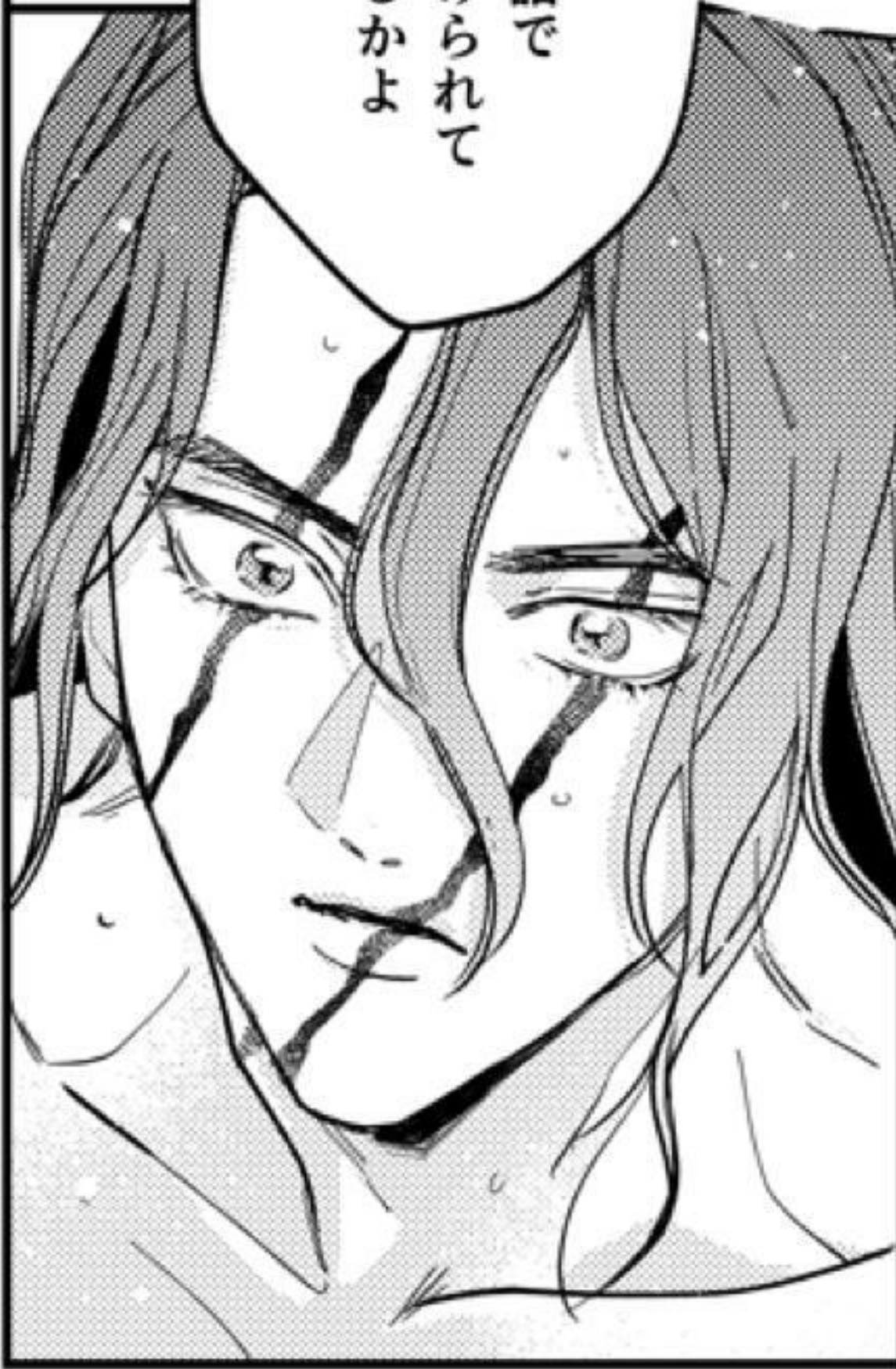


今が夢みたいな
景色だと思うよ

なあに
寝ぼけたこと
言ってんだ



夢なんかじゃねえ
司テメーが信じた
科学の結晶だ



一つずつ
積み重ねて
きたモンを

夢の話で
片付けられて
たまるかよ





ま、
くらしい
冷蔵庫で
おねんねして
たかったら
話は別だけどな

ククク



そうだね



ヒュー

ギュー



君が付き合って
くれるなら
楽しそうだ



ねえ千空



言っても
いいかな



ん...



一緒にイクぞ

ああ

!

きん



千空君って男は

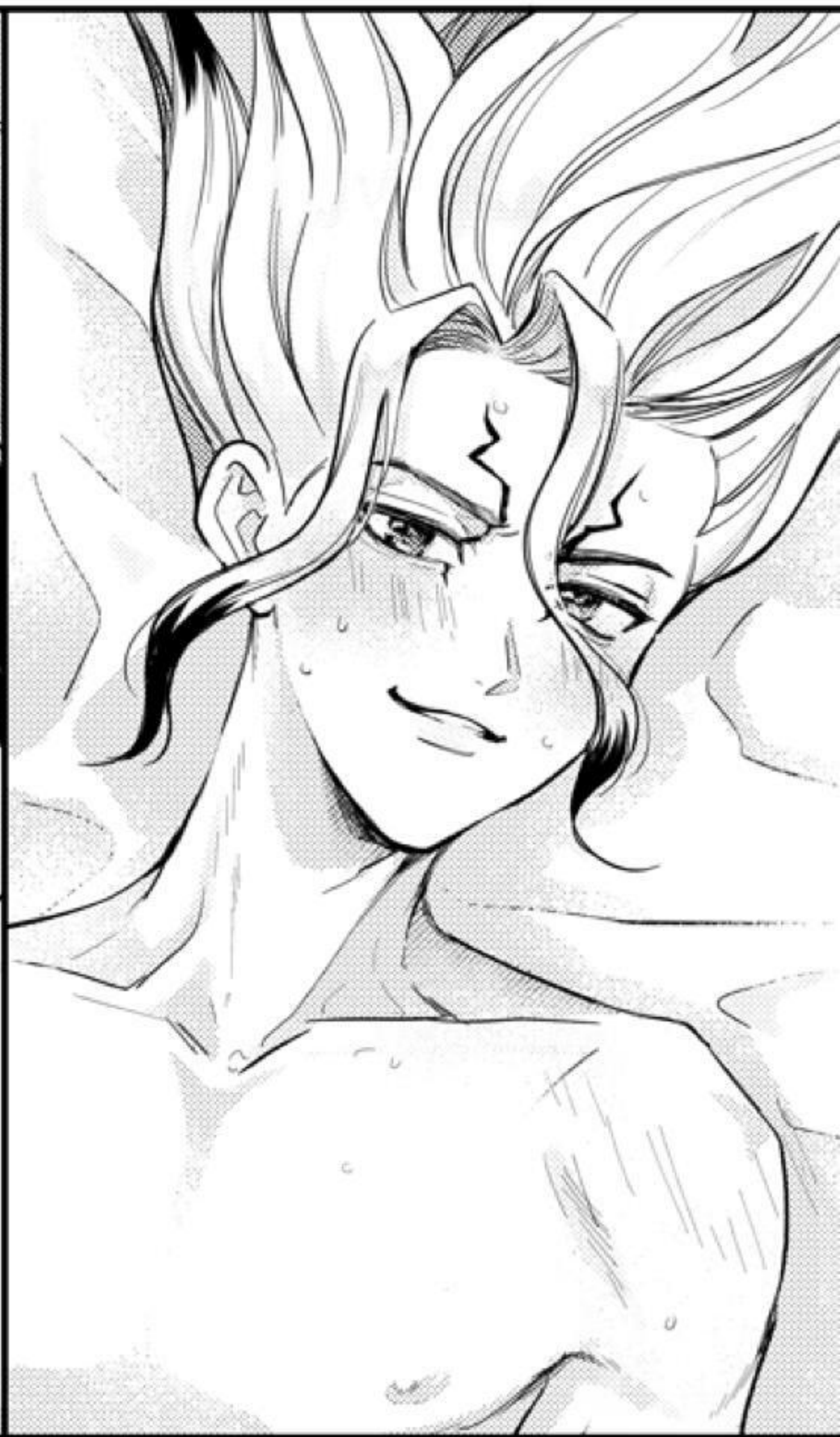
恋とは
落ちるもの

恋愛は先に
惚れた方が
負けだと
言うけれど

それなら
一緒に落ちた
俺たちは？

俺たちが
まだ友達なら





この気持ちを
認めて
降参するのは
どっちが先
なんだろうね

end.